

「陸海空」岐路の夏

一字一筆

静岡の今

梅雨の最中に「夏至」(22日)を迎えた。この日、全国高校野球選手権静岡大会の組み合わせ抽選会も行われ、静岡に「夏」の到来を告げる。実際に真夏の暑さを感じるのは1カ月前ほど先だが、本格的な夏の到来を前に「遠州三山」と

して知られる袋井市内の法多山、可睡斎、油山寺では今年も「風鈴まつり」(8月31日まで)が始まり、それぞれの境内には涼やかな音色が流れている。

6月県議会が19日開会したが、県がかかわる陸海空の「交通インフラ」が今、大きな曲がり角に差しかかっている。

リニア中央新幹線トンネル静岡工区(静岡市葵区)の着工が遅れている。工事による大井川の流量減少など自然保護問題で地元自治体との調整がつかず、川勝平太知事も13日、南アルプス山中の工事予定地を視察したが、「ゴーサイン」は出さなかった。

「陸」では、2027年の開業を目指すJR東海の

「海」では、赤字で就航継続ができなくなった民間経営の駿河湾フェリーは、6月から県と関係6市町でつくる法人「ふじさん駿河湾フェリー」が運航を引き継いだ。一方、「空」の富士山静岡空港は4日、開港10周年を迎えた。建設時の測量ミスなどで開港が遅れ、「難産の子」(開港当時の石川嘉延知事)と言われたが、10年で年間利用者70万人を超える空港に成長した。こちらは、4月から民間の「富士山静岡空港株式会社」に運営をパトナタッチした。

県の対応が分かれた空海の交通インフラは、今後それぞれの選択の適否が問われる。

「風鈴まつり」が涼を誘う袋井市の夏の最大イベントは「ふくろい遠州の花火」(8月10日)である。2万5千発が夜空に舞う県内屈指の花火大会の後は、エコパスタジアムでラグビーワールドカップ日本戦(9月28日)も控えている。

さわやかな風鈴の音の向こうで暑い祭りの喧嘩が聞こえる。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



法多山の「風鈴まつり」=袋井市、全日写連・北原博さん撮影